令和3年度

大阪市立水都国際中学校及び大阪市立水都国際高等学校

指定管理法人業務 事業報告書

1 特定公立国際教育学校等の概要

名称	大阪市立水都国際中学校 大阪市立水都国際高等学校
所在地	大阪市住之江区南港中2丁目7番18号（東学舎） 大阪市住之江区南港中3丁目7番13号（西学舎）
設置形態	学校教育法第71条に規定する併設型中高一貫校
設置学級数	中学校 3年6学級（240名） 高等学校 3年6学級（231名）

2 指定公立国際教育学校等管理法人（指定管理法人）の概要

法人名	学校法人大阪YMCA
主たる事務所の位置	大阪市西区土佐堀1丁目5番6号
代表者	理事長 末岡 祥弘
担当役員	理事 松野 時彦
担当者	課長 小西 雄希
連絡先	06-7662-9600
指定期間	平成31年4月1日～令和4年3月31日
報告対象期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日

3 指定管理法人業務の実施状況

(1) 管理運営上の目標

<教育目標> 「社会に貢献する協創力をみがく」 中高共通

主体性…強い意志と使命感を持って、自ら考え判断し、行動する資質・能力。

寛容性…多様な価値観やその背景を心広く、受け入れる資質・能力。

創造性…新たな価値を生み出していくことができる資質・能力。

<課題> 「国際社会で活躍し、大阪の経済成長をけん引する人材を育てる」
中高共通

<重点目標> 「実用的な英語教育並びに課題探究型の教育実践」

高等学校：国際バカロレアのカリキュラムに対応できる英語能力の向上と、批判的（クリティカル）に課題を見つけ出し、解決していくスキルの修練と向上をめざす。

中学校：実用的な英語教育に重点を置き、自ら課題を発見し解決することを目的とした課題探究型授業を多く展開し、生徒の主体的に学ぶ力や豊かな知性の育成をめざす。

(2) 具体的な取り組みとその結果

1. 中高共通

① 安心して安全な学校生活の実現

中学校では道徳の授業において「相互理解・寛容」の項目を充実させ、自分の考えや

意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる価値観、意見も大切にすることを一層育まれている。高校では、グローバルイシュー探究の授業において、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる価値観、意見も大切にすることを「寛容・個性尊重」の姿勢が一層育まれている。

②「いじめについて考える日」

有志生徒が中心になり、全クラスにて、中学生が高校生のクラスで司会進行を務める等、中高一貫教育校の特色をいかした授業を行った。「いじめはどのように起こるのか？」についてのグループディスカッション、また、歌や新聞記事を参考にして本校の多様性について意見を出し合い、生徒のアイデアが詰め込まれた時間となった。

③学校説明会での生徒発表

中高の有志生徒が、学校説明会、質疑応答の一部を担った。生徒自身の生活や学習活動をプレゼンテーションすることで、水都生としての自覚が芽生え、学校の取組に、より積極的に参画しようとする姿勢が育まれた。

④スクールフェスティバル(文化祭)の企画運営。

今年度は生徒のみ登校し、発表はオンラインで参加する形式となった。実行委員を中心に、新型コロナウイルス感染症の予防を心掛けて主体的に準備を進めた。各クラスの発表、GAPS等の展示は最大限に工夫が凝らされ、オンラインでの実施にも関わらず充実したスクールフェスティバルとなった。

⑤ICTを活用したオンライン授業の展開

ICTを活用し、生徒の学びを止めないために、緊急事態宣言下やコロナ感染拡大期においてオンライン授業を展開し、登校不安を抱える生徒のためにハイブリッド授業を行う等、より生徒の状況に応じた対応を充実させ授業を展開した。それにとどまらず、教員のオンライン授業を行う際のセットアップや授業法のノウハウをモデルケースとして動画で公開した。またハイブリッド授業の動画は、ICT活用の校内マネジメント法についてのレクチャー動画とともに、大阪市立小学校・中学校の教員対象研修に利用され、広く共有されることとなった。

⑥助成金取得によるプログラム展開

三菱みらい教育財団の助成金により、「水都アクションプロジェクト」という講座を通年で開講した。これは生徒自らがSDGs達成に貢献するため、社会課題を解決していくプロジェクト型学習である。中1から高2まで学年を超えたプロジェクトチームで、「食品ロス削減のための食料回収と寄付」、「日本の小学校の使用済計算カードによる、アフリカの小学生の計算能力向上モデル構築」等のテーマで、オンライン等を利用してグローバルな取組を進めている。また、パナソニック教育財団より助成を受け、中学校全学年の総合的な学習の時間において「つくることから学ぶ」をモットーにしたクリエイティブラーニングを実施し、課題解決の素地を育む学びを進めている。

2. 高等学校

①学校として全コースの生徒に TOEFL Test を実施している。高校1年生は年に2回 TOEFL Jr. を受験し、ほとんどの生徒の英語能力に伸長がみられた。テストのスコアについては、IB コースを選択する際の基準の1つとしても活用している。高校2年生から、一部の生徒はより難易度の高い TOEFL ITP を受験し、TOEFL iBT への足がかりとしている。

②2年生に向けたコース選択について、3コースのそれぞれの特徴的な教科の体験授業を実施した。

③IB コース選択希望者に対して、生徒・保護者対象の説明会・授業体験会を行った。国際バカロレアの制度や IB コースで実際行われる授業について、生徒・保護者がよく理解し、生徒が適切に進路選択することにおいて、一定の成果が得られた。

3. 中学校

- ①英語四技能の習熟度を測るため、11月にAAPPLテストを実施した。令和2年度の結果と比較して、特にスピーキングとライティングのアウトプットに関して、レベルの顕著な向上がみられた。
- ②ST（水都探究）の実施。
中学1年～3年生を対象に「ST-スカトヲトクシ」と名付けられた特色あるプログラムで個別探究活動を実施した。4月にテーマを設定し、11月にグループごとの成果発表会を行った。

(3)教育課程

1. 中学校教育課程について

別紙1-1 中学校教育課程表に基づいて実施

2. 高等学校教育課程について

別紙1-2 高等学校教育課程表に基づいて実施

3. 英語を用いた授業の実施状況

①中学校

英語、数学、理科、グローバルスタディズの授業で英語を用いた授業を行なった。ホームルームの一部について英語を用いて実施した。

②高等学校

英語、数学、理科、グローバルイシューの授業で英語を用いた授業を行った。ホームルームの一部について英語を用いて実施した。

(4)年間行事

中学校、高等学校の年間行事予定表（別紙2）に基づいて実施。

(5)入学者選抜の実施状況

<中学校>

日 程：令和4年1月22日

志願者数：364名

合格者数：80名

<高等学校>

日 程：令和4年2月17日、18日

志願者数：126名（特別選抜 118名、帰国生選抜 8名）

合格者数：82名（特別選抜 74名、帰国生選抜 8名）

(6)卒業者の状況

別紙3 合格実績

(7)2021高3生のIBスコア結果

1 フルディプロマ取得について

- ・フルディプロマ取得率：75.0%

(8) 英語力の状況

高等学校

	CEFR A2 (英検準 2 級)	CEFR B1 (英検 2 級)	CEFR B2 (英検準 1 級)
高校 1 年	22 名	25 名	1 名
高校 2 年	15 名	17 名	2 名
高校 3 年	7 名	24 名	5 名

中学校

	CEFR A1 (英検 3 級)	CEFR A2 (英検準 2 級)	CEFR B1 (英検 2 級)	CEFR B2 (英検準 1 級)
中学 1 年	14 名	3 名	5 名	0 名
中学 2 年	12 名	8 名	5 名	2 名
中学 3 年	17 名	19 名	10 名	5 名

(9) その他処分の状況

処分等		中学校	高等学校
懲 戒	退学	0	0
	停学	—	1
	訓告	0	2
転入学、編入学		—	0
退学		—	3
休学、留学		—	0

(10) 民間知見を活用した教育活動の状況

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、多くの教育活動が制限される中、積極的に ICT を利用した教育を実践した。生徒の安全を守るため、コロナ感染に不安のある生徒のために、オンラインと対面の授業を組み合わせたハイブリッド授業を展開し学びを継続させた。またオンラインでグループ討議や発表の場を持たせるなど双方向の授業展開をスムーズに行えるよう教員に対する ICT 教育の内容の研修も実施した。

(11) 教育上特別の配慮を必要とする生徒への支援等の状況

専門家を派遣し、特別支援委員会を定期的に開催し、当該生徒の学校生活の様子を把握し、対応している。また、生徒理解に努め、保護者の思いに寄り添い、個別の支援計画の作成を行っている。

(12) 管理施設の補修・修繕、更新等の状況

- ・東学舎電気室火災感知器補修、西学舎屋内消火栓設備補修
- ・東学舎体育館キャットウォーク天井ボード補修、東学舎給食調理室給湯配管補修 等

4 職員の配置状況

(1) 教職員の配置状況（令和3年5月1日時点）

職名	中学校		高等学校	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
校長	1 * 中高共通	0	0	0
副校長	0	0	1 * 中高共通	0
教頭	1	0	1	0
主幹教諭	0	0	0	0
指導教諭	0	0	0	0
教諭	10	1	29	9 * 中高共通
養護教諭	1 * 中高共通	0	0	0
栄養教諭	0	0	0	0
実習助手	0	0	8	0
事務職員	1	0	13	0
学校用務員	1	0	1	0
計	15	1	53	9

(2) 外国人の教諭等の配置状況（令和3年5月1日時点）

職名	教員免許状	担当教科	担当校種	雇用形態
英語教諭（3名）	特別免許	英語	高等学校	常勤
数学教諭（4名）	特別免許	数学	高等学校	常勤
理科教諭（4名）	特別免許	理科	高等学校	常勤
指導助手（8名）	なし	英語・数学・理科・グローバルスタディー・グローバルイシュー探究	高等学校	常勤
ICT職員（1名）	なし	ICT	事務職員	常勤

5 管理代行料に係る収支の状況

(1) 収入

項目	金額
管理代行料	558,740,600 円

(2) 支出

項目	金額
人件費	363,317,494 円
その他報酬	17,149,055 円
旅費	448,479 円
消耗品費	12,154,806 円
光熱水費	11,569,393 円
建物・備品修繕料	808,214 円
通信運搬費	1,548,109 円
施設管理費	10,430,823 円
中学校給食実施費	16,016,000 円
その他運営費	125,298,227 円
計	558,740,600 円

6 その他取組の状況

(1) 個人情報保護の取組

- ・個人情報保護に必要な体制を整備し、適切に管理している。

(2) 情報公開の取組

- ・学校 HP を活用し、積極的な情報公開に適切に努めている。

(3) 教職員研修の状況等人材育成の取組

- ・教職員研修会及びOJT等を用いて学内での人材育成の実施
- ・大阪市教育委員会主催の各種研修及び大阪 YMCA の研修に参加
- ・国際バカロレアワークショップに参加

(4) 入学希望者数増加に向けた取組

- ・学校説明会実施
中学校：6月5日（オンライン）、10月16日、11月13日 計3回
高等学校：6月12日（オンライン）、10月30日、11月20日、12月18日 計4回
- ・外部団体等主催進学説明会等参加 年間19回
- ・中学校出前授業4校、学校教員対象説明会6回
- ・中学校訪問250校 資料送付 等

- (5) 大阪市の学校教育全体の拠点校としての取組
- ・ 11月に大阪市教育センター主催で、大阪市小学校・中学校中堅教員対象オンライン全員研修を実施した。テーマは「校内ICT教育マネジメント 大阪市 Ver.『全員を巻き込むには?』」とし、大阪市の小学校・中学校でのICT教育促進に向けて、中堅教員が自校でマネジメントを行うサポートをすることを目的とした。
 - ・ 学校訪問受け入れ
- (6) 国際バカロレアに関する取組
- ・ 中学校で「数学」「理科」「国際理解(学校選択教科)」等、高等学校で「数学」「理科」「グローバル探究(学校設定教科)」等の教科等について、英語による指導(イメージ教育)を実施。
 - ・ CAS活動について
青少年育成や奉仕に関して経験が豊富なYアンバサダー(YMCAのOBOG)とオンラインにて交流会と発表会を実施したことにより、生徒のプロジェクトが改善するとともに、学校外のコミュニティが本校についての理解を深める機会を持つことができた。
 - ・ TOKについて
グローバルコミュニケーションコースの生徒およびグローバルサイエンスコースの生徒数名がTOK科目サーティフィケートを取得した。
- (7) 地域との連携、活性化に寄与する取組
- ・ 地域活動協議会(毎月)への参加
 - ・ 地域活動協議会とIB生による地域の学び時間を開催
大阪市住之江区社会福祉協議会の支援の下、地域の方から講義を受け、本校の位置する南港海の町の清掃活動を行う中で地域への理解を深めることができた。また、地域住民の方を本校に招き、生徒が、南港の歴史と防災に関する探究結果を発表した後、「地域の方と水都生で考えるこれからの南港」をテーマにディスカッションを行った。
- (8) 大学・企業等との連携の取組
- ・ 大阪教育大学へ校長が出講し教員のキャリア形成論について講義
 - ・ 大学教員の学校訪問及び意見交換会
 - ・ 立命館アジア太平洋大学との連携協力および推薦入学制度に関する協定書締結
 - ・ Google for Educationとの教育ICT環境の推進
 - ・ NGO、NPO、企業からの講師派遣、オンライン授業
 - ・ 関西学院大学、大阪府立大学による模擬授業および連携協議
- (9) その他の取組
- ・ 他自治体教育委員会の学校訪問 等